

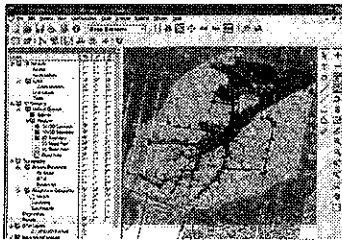
雨水解析ソフトが好評

ドイツ・ジャパン GISとの連携も可能

ドイツ・ジャパン GIS社(本社:東京・三田)が取り扱う雨水流出解析ソフト

『XP-SWMM』、氾濫解析ソフト『XP-Flood:2D』が高性能・多機能さ、操作性の高さなどから注目を集めている。

『XP-SWMM』は米環境保護庁とフロリダ大学で開発した解析エンジン『SWMM』をXP Software社による機能強化とユーザフレンドリーに改良された雨水流出解析ソフトで、下水処理施設、水質管理施設及び最適管理方式を含む雨水・排水システムの水文、水理及び水質解析を行うことができる。



精度の高いシミュレーションを実現している

同ソフトの特長としては、精度の高いシミュレーションを実現したことや複数降雨の一括解析、計算速度の速さ、秒単位から年単位でシミュレーションが可能など、性能の高さがあげられる。また地理情報システムソフト(GIS)と連携することで従来は図面に基いて手作業で入力していたデータが簡単に入力できるほか、降雨データやその他の解析設定データも同様の方法により簡単に設定できる。さらに表計算ソフトや市販のデータベースからのデータの取り込み、そして様々な形式へのデータ出力などが容易に行えるなど操作性に優れる。

『XP-Flood:2D』は日本水工設計と協力して開発したソフトで時系列を追って氾濫状態を表示する。

パインズ社長は「海外の優れた技術系のソフトの中で日本に合った使いやすいものを提供していきます。『XP-SWMM』ならびに『XP-Flood:2D』が日本の浸水被害の解決に役立てていただきたいと思います」と語った。